

自己点検表

1. 教員個別表

フリガナ カトウ ミキ 氏 名 加藤 美紀	仙台白百合女子大学 学長 人間学部グローバル・スタディーズ学科 教授	取得学位 博士（教育学） （大学名） 上智大学 （取得年月） 2013年3月
--------------------------	---------------------------------------	---

2. 教育・研究業績表

(1) 過去5年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概 要
1. 授業内容・方法の工夫 (1) 講義「キリスト教学 I A・I B」	2011.4～現在	① 学生が自己省察力を身に付けられるように、毎時間の講義の始めに、宗教音楽を聴きながら立腰により瞑想する時間を設けている。 ② 学生が聖書に親しむことができるように、毎時間、聖書の一節を板書して解説するとともに、各自聖書を手に取り開いて読む時間を設けている。 ③ 学生が同世代の仲間の考え方や感じ方を共有できるように、毎時間2名の学生に「感動したエピソード」についてスピーチさせている。 ④ 学生がイエス・キリストの福音を各自の生き方と結びつけられるように、現代世界の諸問題に関する DVD 視聴を取り入れている。 ⑤ 学生が授業全体の流れを 1 枚のプリントでつかめるよう、キーワード穴埋め書き込み式のレジュメを毎時間作成し、活用させている。 ⑥ 学生の理解度を把握し、次回以降の講義内容を調整できるように、学生から毎時間リアクション・ペーパーを提出させ、入念に検討している。 …その結果、学生からの授業評価は大変良好である。
(2) 講義「教育学概論」	2013.4～現在	① 学生が教育学の概念を整理して理解できるように、毎時間パワーポイント資料を作成し、視覚的に訴える講義を実践している。 ② 学生が自らの教育経験の意味を理解できるように、毎時間2名の学生に「心に残る先生」についてスピーチさせている。 ③ 学生の問題意識を喚起するために、毎時間頻繁に発問し、多くの学生に発言させながら対話形式で講義を進行している。 ④ 学生が世界各国の教育事情について具体的に理解できるように、関連する適切な DVD 教材の視聴を毎時間取り入れている。 ⑤ 学生の理解度を把握し、次回以降の講義内容を調整することをねらいとして、毎時間リアクション・ペーパーを提出させている。 …その結果、学生は興味をもって意欲的に取り組んでいる。

(3) 講義「キリスト教と教育」	2016.9～2022.3	カトリック大学でこどもと教育について 4 年間学んできたことの集大成として、本学部の目指す「人間の理解と援助」の具体像をキリスト教的価値観で統合することを目指す講義である。聖書に通ずる教育思想を紹介して、自らの教育経験を総括する課題に取り組みさせる。こうして学生各自が理想とする教師・学校・授業・教育のイメージを構築できるように指導する。
(4) 輪講「教職実習演習(中高/栄養)」	2014.9～2024.3	5 回の授業を通して、自らの教育実習の経験を振り返りながら、学校で課題となっている不登校やいじめ、保護者対応、専門連携などについて、ケーススタディーの分析とロールプレイング等を実践し、生徒理解や学級経営能力を身につけ、教師としての力量形成を図る。
(5) 輪講「国際福祉論」	2018.4～2018.7	キリスト教精神に基づき、心理福祉の国際活動を学びながら、国や地域を限定することなく幅広く正解の心理福祉について学ぶことを目的とする。
(6) 輪講「グローバル・スタディーズ基礎演習Ⅱ」	2013.4～現在	新入生への導入教育として、加藤はスタディ・スキルズ演習を担当する。具体的には、大学で学ぶために必要な技法として、ノートのとり方、レポートの書き方、情報収集の仕方、読書法、パワーポイントを使用した発表の仕方、などをグループワークの演習形式で身につける。
(7) 演習「グローバル・スタディーズ総合演習Ⅰ・Ⅱ」	2011.4～2024.3	「生きる意味」を見出すことをテーマとして、古今東西の幸福論、人生論、死生観を学び、人間の生き方について考える。特に、第二次世界大戦中の強制収容所体験を綴った『夜と霧』を講読し、著者の精神科医フランクルの心理学を検討する。一年間の演習を通して、各自の人生の課題を発見し、探求する方法を学ぶとともに、ゼミ生との討論を通して、自分の考えを発表する力を身につけ、自分を表現することを目指す。
(8) 演習「グローバル・スタディーズ総合演習Ⅲ・Ⅳ」	2011.4～2024.3	地球規模問題群を中心として、現代世界をめぐる諸問題についての理解を深め、解決の糸口を探るための手がかりとなる理論を学び、対処の可能性についてゼミ生と議論する。これにより、よりよい世界をつくるために人間は何ができるのか、そして、私は何ができるのか、自分なりの使命と希望を見出すことを目指す。併せて、受講生の問題意識に関連したテーマについて各自研究を進め、その成果をプレゼンテーションする。
(9) 卒業論文指導	2011.4～2024.3	各自が設定した研究課題について適切な方法で情報収集し、文献およびフィールドワーク調査を実施し、その結果についての的確に分析し、自らの考察を加えながら妥当な結論を導き出せるように、かつ、これらの過程を論文作法に則って表現できるように、適宜文献を紹介しながら、定期的に論文執筆を指導して、卒業論文完成に導く。
2. 教職員研修講師		
(1) 本学教職員合同研修会講師「遠隔授業の取組事例について」	2020.9	非常時の遠隔授業の体験から平常時のハイブリッド授業の可能性を探ることを目的として、2020 年前期オンライン授業の実践報告を行った。
(2) 本学教職員合同研修会講師「創立の源泉に立ち帰る」	2024.3	本学の歴史と建学の精神とビジョン 2030SSGs との関連を説明した。ノートルダム大聖堂募金をコーディネートし仏大使館へ寄付した。
3. ボランティア教育	2019.4～11 2017.8～現在	光が丘スペルマン病院ボランティアへの参加募集を支援した。

4. 国際教育	2018.8	ASEACCU(東南・東アジアカトリック大学連盟)国際学生会議(広島大会)に参加する学生6名を引率した。
5. 宗教教育としての修道院招待	2011.12～ 2019.12	本学在校生・留学生・卒業生を修道院クリスマス会に招待した。
6. 海外研修引率	2019.3 2020.3 2024.3	イタリア・フランス研修の団長として参加者25名を引率した。 イタリア・フランス研修の団長として参加者24名を引率した。 イタリア研修の団長として参加者16名を引率した。
7. オープンキャンパス	2019.6 2019.6 2020.6 2020.12 2021.6 2022.12 2023.6 2024.3	オープニング企画「白百合について知ろう！」を担当した。 グローバル・スタディーズ学科の模擬授業を実施した。 グローバル・スタディーズ学科の模擬授業を実施した。 オープニング「クリスマスの喜びが倍になる白百合の魅力」を担当した。 オープニング「白百合の魅力」と模擬授業を担当した。 オープニング「白百合の魅力」と模擬授業を担当した。 オープニング「白百合の魅力」と模擬授業を担当した。 オープニング「白百合の魅力」を担当した。
9. 講話の印刷発表	2019.3 2019.3 2020.3 2020.3 2021.3 2022.3 2018.11	「聖書にみる二つのいのち」仙台白百合女子大学カトリック研究所編『講話集』第9号(99-103頁)掲載 「フランクルの『夜と霧』を読む」仙台白百合女子大学カトリック研究所編『論集』第23号(65-100頁)掲載 「イエスの誕生物語にみる福音」仙台白百合女子大学カトリック研究所編『講話集』第10号(101-107頁)掲載 「カトリック系教育機関で福音を伝えるためのQ&A」仙台白百合女子大学カトリック研究所編『論集』第24号(125-124頁)掲載 「ストーリーとしての建学の精神を生き継ぐ」仙台白百合女子大学カトリック研究所編『論集』第25号(59-75頁)掲載 「幸せになるための法則はあるのか」仙台白百合女子大学カトリック研究所編『論集』第26号(167-174頁)掲載

10. 巡礼遠足の企画・実施	2019.11	平泉・水沢への東北キリシタン巡礼遠足を企画し学生 38 名を引率した。 大籠・石巻への東北キリシタン巡礼遠足を企画し学生 30 名を引率した。
----------------	---------	--

(2) 過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
[論文]						
1.「コーリング意識を育むカトリック大学のキャリア教育」	単著	2019.8	『カトリック研究』第 88 号		上智大学神学会編	29-48 頁
2.「教会の宣教におけるカトリック大学の使命と可能性」	単著	2021.8	『カトリック教育研究』第 38 号		日本カトリック教育学会編	33-72 頁
3.「カトリック大学のキャンパス・ミニストリーにおける福音宣教の在り方」	単著	2022.3	『仙台白百合女子大学紀要』第 26 号		仙台白百合女子大学編	1-15 頁
[実践報告]						
1.「授業実践の改善を目指して—教職課程科目を中心に—」	単著	2023.2	『教職課程研究センター報』第 2 号		本学教職課程研究センター編	25-30 頁
[著書]						
1.『〈生きる意味〉の教育—スピリチュアリティを育むカトリック学校—』	単著	2020.5.24	教友社			全 462 頁
2.『アンジェラスの鐘—希望への招き—』	単著	2022.10.7	オリエンス宗教研究所		加藤担当、231-269 頁	全 272 頁
3.『いのちと霊性—キリスト教講演集—』	共著	2023.2.11	教友社		加藤担当、342-387 頁	全 474 頁
4.『東北キリシタン探訪』	共著	2024.3.25	教友社			全 400 頁
[その他]						
1.エッセイ「神からのコーリング(召命)のしるし」	単著	2019.4	キリスト教月刊誌『福音宣教』		オリエンス宗教研究所	全 22 回
2.連載記事「アンジェラスの鐘」	単著	2020.1~2021.12	キリスト教月刊誌『福音宣教』		オリエンス宗教研究所	34-40 頁
3.エッセイ「“待降節”と掛けて“再生”と解く その心は“ルルドの泉”」	単著	2020.11	キリスト教月刊誌『カトリック生活』12 月号		ドン・ボスコ社	各 5500 字 4-6 頁
4.エッセイ「よりどころに立ち帰る」	単著	2021.11	聖書週間「聖書に親しむ」リー		カトリック中央協議会	

5.エッセイ「闇が光に変わるとき」	単著	2022.12	フレット キリスト教月刊誌『カトリック生活』1月号		ドン・ボスコ社	2-5頁
6 エッセイ「人間の愛、神の愛—「たましい」と「しるし」—」		2023.2	キリスト教月刊誌『家庭の友』3月号		サン・パウロ	8-10頁
7.エッセイ「その名はインマヌエル」		2023.11	『カトリック生活』12月号		ドン・ボスコ社	5-7頁
8.エッセイ「涙、喝采、Forever 我が心の友よ！」		2024.4	『カトリック生活』感謝号		ドン・ボスコ社	11頁
9.連載記事「大人向け福音解説」		2022.4～現在	キリスト教週刊誌『こじか』		オリエンズ宗教研究所	毎号 1000 字程度
翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共訳者名 (共訳の場合)	監修者名と当該訳者 数(監修訳書の場合)	該当頁数

I 学術研究発表		
発表テーマ	発表年月(西暦)	発表場所
1..シンポジスト提題 2:「青年期の生きる意味を支える宗教教育の可能性」	2019.2.23	日本カトリック教育学会特別企画Ⅱシンポジウム(於上智大学)
2.「カトリック教育は青年期の自己肯定感を育めるか」	2019.8.31	日本カトリック教育学会第 43 回全国大会 ラウンドテーブル話題提供(於南山大学)
3.シンポジスト提題 3:「自己肯定感を育むスピリチュアリティの教育—統合的教育への架け橋として—」	2021.10.30-31	ソフィアシンポジウム「教育とヒューマニズムの邂逅」シンポジウム(於上智大学)
4.シンポジスト提題 2:「かけがえのない魂への配慮」	2022.6.18	カトリック大学キリスト教文化研究所第 34 回協議会シンポジウム(於南山大学)
*この他、日本カトリック教育学会第 46 回全国大会事務局長、シンポジウム司会、自由研究発表司会などを担当。	2018、2021、2022	(於白百合女子大学、清泉女子大学、本学)
II 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)

日本カトリック教育学会 東北教育哲学教育史学会 日本質的心理学会 教育哲学会 日本スピリチュアルケア学会 日本宣教学会 上智人間学会	全国理事(2019.9～現在)	2002.4 2005.4 2005.4～2023.5 2013.4 2021.7 2022.10 2022.11
--	-----------------	---

Ⅲ 研究費の助成を受けた研究(過去5年間)				
助成機関名	助成を受けた年度 (西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 (円)
日本カトリック大学連盟	2020	カトリック学術奨励金 共同研究	カトリック教育における自己肯定感—自己に関する神学と教育学の相互参与的実証研究(代表者:原敬子、共同研究者:武田なほみ、寺尾寿芳)	

(3) 特記事項

<p>〔講話等の講師〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2012.9 日本カトリック教育学会第36回全国大会・自由研究発表第1セッション司会 於長野清泉女子大学 ・2013.2 本学カトリック研究所主催 2012年度第3回研究会・講師 演題「生きる意味を教えることはできるか」 ・2014.1 仙台白百合学園保護者講話会・講師 演題「生きる意味と聖書の物語」 ・2014.2 仙台白百合学園保護者講話会・講師 演題「聖書と現代人のスピリチュアリティ」 ・2014.9 本学オンキャンパス社会人講座・講師 演題「生きる意味の教育」講師 第1回「フランクフルに学ぶスピリチュアリティの育成」 ・2014.10 本学オンキャンパス社会人講座・講師 演題「生きる意味の教育」講師 第2回「自己物語の創造と生きる意味の発見」 ・2015.1 仙台白百合学園保護者講話会・講師 演題「エニアグラムとイエスの9つの顔」 ・2015.2 仙台白百合学園保護者講話会・講師 演題「フランクフルの思想と生きる意味」 ・2015.10 本学オンキャンパス社会人講座・講師 演題「フランクフルの思想—生きる意味を求めて—」講師 第1回「生きる意味への闘い」 ・2015.10 本学オンキャンパス社会人講座・講師 演題「フランクフルの思想—生きる意味を求めて—」講師 第2回「ロゴセラピーと<魂への配慮>」 ・2015.12 仙台白百合学園保護者講話会・講師 演題「ユングのタイプ理論と自己実現」 ・2016.6 本学人間発達研究センター主催第5回研究会・講師 演題「“生きる意味”の教育を目指して」 ・2016.10 仙台白百合学園高等学校修養会・講師 演題「平和—よりよい世界を築くために—」 ・2017.1 本学オンキャンパス社会人講座・講師 演題「生きる意味と魂—フランクフルの思想から—」講師 第1回「ロゴセラピーと魂の癒し」 ・2017.1 本学オンキャンパス社会人講座・講師 演題「生きる意味と魂—フランクフルの思想から—」講師 第2回「現代人の救いとスピリチュアリティ」 ・2017.2 仙台白百合学園保護者講話会・講師 演題「日本人の死生観と復活のイエス」
--

- ・2017.3 東北地区 SGH 課題研究発表フォーラム講師(コメンテーター) 於本学
- ・2017.7 光が丘スペルマン病院ボランティア養成講座・講師 演題「生きること、生かされていることの意味を問う」
- ・2017.9 本学カトリック研究所特別講座・講師 演題「フランクルの『夜と霧』を読む」
- ・2017.10 仙台白百合学園高等学校修養会・講師 演題「平和をつくる人は幸い」
- ・2017.10 聖ヴィンセンシオ・ア・パウロ会黙想会・講師 演題「人生に YES と言うために—ロゴセラピーに学ぶ—」
- ・2018.2 仙台白百合学園保護者講話会・講師 演題「死を超えるいのちへの希望」
- ・2018.3 白百合カフェ講話・講師 演題「聖書に学ぶ人生肯定法」
- ・2018.3 東仙台教会黙想会・講師 演題「過ぎ越しの神秘を生きる」
- ・2018.5 長野清泉女学院短期大学静修会・講師 演題「“愛”って何?～キリスト教を身近に」
- ・2018.7 学都仙台コンソーシアムサテライトキャンパス講座・講師 演題「『夜と霧』に学ぶ“生きる意味”」
- ・2018.7 仙台赤門短期大学看護学科「人間学」講師 演題「看護を支える人間観—生きる意味とスピリチュアルケア—」(～現在)
- ・2018.9 日本カトリック教育学会第 42 回全国大会・自由研究発表第 1 セッション A 司会 於白百合女子大学
- ・2019.3 東北地区 SGH 課題研究発表フォーラム講師(コメンテーター) 於東北大学
- ・2019.4 ラボ教育センター東北支局講演会・講師 演題「こどものための未来教育—自己物語の創造と生きる意味の教育—」
- ・2019.9 学都仙台コンソーシアムサテライトキャンパス講座・講師 演題「フランクルのロゴセラピーに学ぶ“生きる意味”」
- ・2019.10 盛岡白百合学園高等学校修養会・講師 演題「いのちが輝くために」
- ・2019.10 聖ウルスラ学院英智小学校静修会・講師 演題「希望をもって生きる」
- ・2020.10 盛岡白百合学園高等学校修養会・講師 演題「いのちが輝くとき」
- ・2021.9 学都仙台コンソーシアムサテライトキャンパス講座・講師 演題「カミュ『ペスト』にみる不条理の生き方」
- ・2021.10 白百合女子大学修養会・講師 演題「いのちを輝かせて生きる」
- ・2021.10 聖ウルスラ学院英智高等学校静修会・講師 演題「あなたは愛されるために生まれた」
- ・2021.12 盛岡白百合学園高等学校修養会・講師 演題「いのちの輝き 神の愛」
- ・2022.1 本学カトリック研究所主催 2021 年度第 3 回研究会・講師 演題「カミュ『ペスト』を読む—不条理を生き抜く—」
- ・2022.9 日本カトリック児童施設協会東北ブロック職員研修会・講師 演題「世界で一つだけの魂のケア」
- ・2022.10 盛岡白百合学園高等学校修養会・講師 演題「いのちが輝くために」
- ・2022.10 聖ウルスラ学院英智高等学校静修会・講師 演題「希望の扉を開く」
- ・2022.10 八戸聖ウルスラ学院中学・高等学校静修会・講師 演題「絶望のあるところに希望を」
- ・2023.2 児童養護施設 ラ・サール・ホーム園内研修会・講師 演題「かけがえのない魂のケア」
- ・2023.2 NPO 法人 生と死を考える会教養講座・講師 演題「ヴィクトル・フランク—苦難に臨む人間の態度とは—」
- ・2023.2 NPO 法人 スピリチュアルケア研究会ちば 講演会・講師 演題「生きる希望を育むスピリチュアルケア」
- ・2023.3 仙台白百合学園学園研修会・講師 演題「建学の精神の源泉に立ち帰る」
- ・2023.4 郡山ザベリオ学園教職員研修会・講師 演題「いのち輝く学校を目指して」
- ・2023.5 児童養護施設 仙台天使園職員研修会・講師 演題「命のケアと魂への配慮」
- ・2023.5 郡山ザベリオ学園キリスト教講演会・講師 演題「いのちを輝かせて生きる」
- ・2023.10 盛岡白百合学園高等学校修養会・講師 演題「神の愛に生かされて」

- ・2023.10 白百合女子大学修養会・講師 演題「いのちを輝かせて生きる」
- ・2023.10 仙台白百合学園学園修養会・講師 演題「平和をつくる人は幸い」
- ・2023.11 東北地区宗教倫理ワークショップ講師 演題「ミッションスクールを好きになる宗教科の授業」
- ・2023.12 学都仙台コンソーシアムサテライトキャンパス講座・講師 演題「希望を拓くスピリチュアルケア—フランクルの治療例に学ぶ—」
- ・2024.3 社会福祉法人 仙台いのちの電話 講演会・講師 演題「悲しみから立ち上がる—希望のスピリチュアルケア—」

〔大学管理運営上の実績〕

- ・2014.4～2024.3 宗教委員会委員長
- ・2014.4～2024.3 カトリック研究所所長
- ・2024.4～現在 学長

〔学外の活動〕

- ・2013.6～2022.6 カトリック大学キリスト教文化研究所協議会会計監査
- ・2022.6～現在 カトリック大学キリスト教文化研究所協議会幹事
- ・2019.9～現在 日本カトリック教育学会全国理事
- ・2020.7～現在 IDE 大学協会東北支部実行委員会委員
- ・2021.4～現在 仙台放送番組審議会委員

〔メディア報道〕

- ・2019.4.16 NHK 仙台放送局『てれまさむね』「ノートルダム大聖堂火災、その時、加藤美紀さんは」
- ・2019.4.17 NHB 東日本放送『チャージ！』「ノートルダム大聖堂再建への祈り」
- ・2019.4.17 『日本産経新聞』夕刊「日本から仏へ復興祈る」
- ・2019.4.17 『産経新聞』朝刊「きっと再建できる/復旧祈りたい 日本文化人らエール」
- ・2019.11.24 『カトリック新聞』「ノートルダム大聖堂再建のための募金活動」
- ・2021.8.31 『河北新報』朝刊「宮城の大学ゼミナール探訪」
- ・2022.3～7 『河北新報』夕刊「まちかどエッセー」8 回連載
- ・2023.1.28 『産経新聞』朝刊「『ひふみん』の言葉に支えられて…次女が語る父、加藤一二三・九段の素顔

〔受賞〕

- ・2018.6.8 日本カトリック大学連盟学術奨励金「研究奨励賞」受賞
- ・2021.8.28 日本カトリック教育学会「学会賞」受賞

自己点検表

1. 教員個別表

フリガナ ヤマダ メグミ 氏 名 山田 恵	職 名 教授 人間学部 グローバル・スタディーズ学 科	取 得 学 位 博士(国際文化) (大学名) 東北大学大学院 (取得年月) 2006年3月
--------------------------	-----------------------------------	--

2. 教育・研究業績表

(1) 過去5年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概 要
1. 教育内容・方法の工夫		
・マイクロソフトパワーポイント等を用いた独自教材作成と活用	2010.4～現在	「アメリカの歴史と文化Ⅰ」「アメリカの歴史と文化Ⅱ」「アメリカの文学」といった講義科目においては、映像や写真を組み入れた独自の教材をパワーポイントで作成し、活用している。
2. 作成した教科書、教材、参考書		
『エスニシティと物語り—複眼的文学論』(金星堂)	2019.3	アメリカ文学をエスニシティの観点から紹介する『エスニシティと物語り—複眼的文学論』(金星堂)を共同で出版した。
・『アメリカン・ロードの物語学』(金星堂)の出版	2015.3	アメリカ文学をロード・ナラティブの観点から紹介する『アメリカン・ロードの物語学』(金星堂)を共同で出版した。
3. 教育方法・教育実践に関する発表・講演等		
4. その他教育活動上特記すべき事項		
・海外提携校の開拓・留学協定の締結と国際交流事業の推進	2013.4～2023.3	国際交流センター長として海外提携校の開拓につとめ、「静宜大学」(台湾)、「開南大学」(台湾)、「エディンバラ大学」(英国)、「誠信女子大学校」(韓国)との間で留学協定を結び、派遣・受け入れ留学の支援を行った。その他の国際交流事業も含め、学生の教育機会の拡充のために尽力して

・「グローバル・スタディーズ現地実習」の企画・引率	2014 年度～ 2018 年度	グローバル・スタディーズ学科の単位認定科目「グローバル・スタディーズ現地実習」の引率者としてオーストラリアのゴールドコースト市(2014 年度)、アメリカ合衆国カリフォルニア州サンタモニカ市(2015 年度～2016 年度)、アメリカ合衆国カリフォルニア州サンディエゴ市(2017 年度～2018 年度)での英語研修の企画・引率を行った。
・グローバル・スタディーズ学科「異文化体験」の企画・引率	2017.3	グローバル・スタディーズ学科の単位認定科目「異文化体験」の引率者としてシンガポールでの文化体験研修の企画・事前指導・引率を行った。
・韓国誠信女子大学韓国語研修の企画・引率	2019.3	韓国誠信女子大学に協力をお願いし、4 週間の韓国語研修の企画・事前指導・引率を行った。

(2) 過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
[書評] ブラック・ライブズ・スタディーズ—BML 運動を知る 15 のクリティカル・エッセイ	単著	2022.3	『東北アメリカ文学研究』第 45 号 (アメリカ文学会東北支部)			61-65 頁
[論文] レベッカ・コックス・ジャクソンの自伝に示された 19 世紀黒人女性の力の獲得について	単著	2019.3	『エスニシティと物語り—複眼的文学論』(金星堂)			200-213 頁
チャールズ・ジョンソンの『キング博士の冷蔵庫とその他のベッドタイムストーリー』における仏教的視点について	単著	2019.3	『仙台白百合女子大学紀要』第 23 号(仙台白百合女子大学)			17-25 頁 25-33 頁

ジャリナ・リーの自伝に見るブラック・フェミニズムの萌芽	単著	2017.3	『仙台白百合女子大学紀要』第 21 号(仙台白百合女子大学)				
自由のための新たなロードの物語 —チャールズ・ジョンソンの『牛追い物語』に示された東洋的「道」	単著	2015.3	『アメリカン・ロードの物語学』(金星堂)				265-278 頁
翻訳							
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共訳者名 (共訳の場合)	監修者名と当該訳者 数(監修訳書の場合)		該当頁数
『神との交流—スピリチュアル・ヒエラルキーの手引き』	単訳	2022.7.22	太陽出版				
『シグニファイイング・モンキー—もの騙る猿／アフロ・アメリカン文学批評理論—』	共訳	2009.12	南雲堂フェニックス	山田恵、他 9 名			353-381 頁

学術研究発表		
発表テーマ	発表年月(西暦)	発表場所
チャールズ・ジョンソンの『牛追い物語』—現代アフリカ系アメリカ作家のクロス・カルチュラル・ロード・ナラティブ	2012.3.28	日本女子大学文学部主催 学術交流企画公開ワークショップ「アメリカ文学における〈ロード〉の物語学

II 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)
(国内) 日本アメリカ文学会	東北支部会計(2008.4～2012.3, 2019.4～2020.3) 東北支部幹事(2010.4～2012.3) 東北支部編集委員(2012.4～2014.3) 東北支部事務局長(2015.3～2017.3) 本部大会準備委員(2017.4～2018.3) 東北支部会計監査(2023.4～現在)	1993
東北大学国際文化学会	総務(1999.7～2001.7)	1995
日本アメリカ学会		1997
東北アメリカ学会	事務局次長(2007.7～現在)	2000
多民族学会(MESA)		2006
日本英文学会		2009
東北英文学会(日本英文学会東北支部)	大会準備委員(2009.4～2011.3) 大会準備委員(2014.3～2016.3)	2008
(国外) MLA(Modern Language Association)		1998

III 研究費の助成を受けた研究(過去5年間)				
助成機関名	助成を受けた 年度 (西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 (円)

3. 特記事項

--

自己点検表

1. 教員個別表

フリガナ オオ モト イズミ 氏 名 大本 泉	職 名 教授 人間学部 グローバル・ス タディーズ学科	取 得 学 位 修士(文学) (大学名) 日本女子大学 (取得年月) 1984年3月
----------------------------	-----------------------------------	--

2. 教育・研究業績表

(1) 過去5年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概 要
1. 多様化した学生のニーズに即した授業内容(日本語表現Ⅰ・Ⅱ、日本語と日本文化等)	2010. 4～	就職に直結する日本語力や表現力、日本語検定等の資格取得の学習を授業に求める学生が、年々増えている。そのような学生のニーズに応えるような授業内容を展開している。また、担当講義の中で、収集した知識から自分の見解を構築し、発信する演習も加えた。書くことのみならず、プレゼンテーションの技術を学び、人前で発表する実践等のアクティブ・ラーニングを導入した。 受講者同士の確認や、講師による文章の添削もできるだけ対応している。
2. 作成した教科書、教材、参考書		
大本泉・後藤康二・千葉正昭編『日本語表現 演習と発展【改訂版】』(明治書院)	2011.3	授業の「日本語表現」の教科書として、編者の一人として編集・執筆に参画した。
大本泉『作家のごちそう帖』(平凡社)	2014. 9	授業の「日本の社会と文学」「文学」の参考資料として使用した。
大本泉・後藤康二・二木文明・北條博史・千葉正昭編『神経症と文学 —自分という不自由—』(鼎書房)	2014. 9	授業の「文学」の教科書として使用した。
大本泉『作家のまんぷく帖』(平凡社)	2018. 4	授業の「日本語社会と文学」「文学」の参考資料として使用した。
3. アクティブ・ラーニングの導入	2014. 4～	コミュニケーション力とプレゼンテーション力等の涵養を目的として、ゼミナールはもちろんのこと、担当する「日本の社会と文学」「日本語と日本文化」「文学」「日本語表現Ⅱ」「日本語教育実習」等で導入している。並行して、大学生として重要と思われる図書館やデータベースの使い方や資料収集の方法を習得するように工夫している。

4.資格取得の動機づけ	2013.4～	<p>日本語表現の授業におけることばの習得の一指針として、2002 年から漢字検定受験を薦めてきた。若干の学生が3級を取得して入学しているものの、文章表現の基盤となる正しい日本語を理解するためにも、高校卒業程度の力を要する2級を薦め、その内容を分析・解説し、模擬テストも行った。2013 年 4 月からの授業では、文部科学省の助成を獲得している日本語検定受験を薦め、同検定3級問題の紹介・解説と模擬試験を実践している。グローバル・スタディーズ学科の学生には、後援会からの助成を得て、4 年間の内に3級合格を目標とするように薦めている。2014 年度からは、同学科の日本語教員養成課程受講者は、原則として全員 3 級合格を課している。2014 年度後期から、筆者が昼休みに受験予定者を集めて、ワンポイントレッスンを行っている。東京書籍社長賞受賞の実績もある。</p>
5. 日本語教育	2014. 4～	<p>本学では 2006 年度から本格的に「日本語教員養成課程」たちあげに向けて、準備を進めてきた。担当する「日本語教育実習」では、2009 年度から現在まで提携校の韓国釜慶大学校日語・日文学部にて原則として毎年実習し、日本語教育と文化交流を重ねている。</p> <p>さらに同年8月から東日本大震災前まで、夏休み中、宮城県・岩手県に在籍するAFS留学生を本学内に招いて日本語講座を展開し、日本語教育と国際交流の成果をあげることができた。AFS留学生の評価が高く、さらに毎年6カ国以上の留学生に日本語を教授する経験を得た本学の学生にとっても有意義な学習だった。なお、ロンドン大学における日本語教育関係者の間でも、この実習方法の評価は高かった。</p> <p>2014 年度は、新たに、提携校の山西大学商務学院大学にて教育実習を実施することができた。</p> <p>2012 年度から日本語教育とボランティアをかねた試行として学内留学生を対象とする日本語Tutorsを募り、指導と実践を重ねている。</p> <p>2020 年は、新型コロナウイルスの影響で、渡韓できなかった。そのため前期に、学内の留学生を対象とする実習と、開南大学(台湾)と釜慶大学校(韓国)の大学生を対象としてオンライン実習を行った。</p> <p>2022 年もコロナ禍のため、「日本語教育実習」実習生の実習として、開南大学人文社会学部応用日本語学科(台湾)の学生と釜慶大学校人文社会科学部日本語日本文学科(韓国)の学生とオンラインで台湾のおすすめの観光や韓国と日本の文化の違いをテーマにディスカッションを企画し、</p>

6. 海外での教育	2016.3～	<p>実践した。 コロナ禍後のはじめての海外実習として、「日本語教育実習」で実習生 9 名を釜慶大学校(韓国釜山)へ引率し、巡視した。(2023 年 10 月) 2023 年には、ウソン情報大学(韓国)の日本語スピーチコンテストに参加する学生に、「日本語と日本文化」「日本語教育実習」受講生にボランティア活動として、テーマの立て方、原稿チェック、発音矯正等をするよう指導した。</p> <p>開南大学・同大学院(台湾)では集中講義、台湾大学大学院、釜慶大学校人文社会学大学日語日文学部(韓国)では日本の近現代文学特別講義をした。昨年(2023 年)10 月には、釜慶大学校人文社科学大学日語日文学部にて「日本近現代小説 特別講義(川端康成)」の講話をした。</p> <p>「異文化体験」(GS 学科)を企画立案して学生を引率し、マルチメディア大学(マレーシア)同大学学生・教員と交流した。(2019 年)</p>
-----------	---------	--

(2) 過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
[著書] 1. 大澤正道・大和田茂他編『日本アナキズム運動 人名事典【増補改訂版】』 「北原鉄雄」「ヘミングウェイ、アーネスト」「前田夕 暮」「モーパッサン」	共著	2019.4	ぱる出版		日本アナキズム運動 人名事典編集委員会	305、836、 859、947

2 『尾崎紅葉事典』『関東五郎』『猿枕』『新色懺悔』『文ながし』	共著	2020. 10	翰林書房		山田有策・木谷喜美 枝・宇佐美毅・市川紘 美・大屋幸世編	35 頁・75 頁・ 86-87 頁・126 頁
[論文] 1. 近代文学にあらわれた「食」のことば ——<素材>・<表現>の発見——	单著	2017. 12	「日本語学」(明治書院)			22-30 頁
[その他] 1. 座標 インバウンド増へ 文化の価値再発見が鍵	单著	2019. 1	2019 年 1 月 19 日「河北新報」 朝刊			
2. 座標 「猫の日」を前に 地域との共生考えよう	单著	2019.2	2019 年 2 月 16 日「河北新報」			
3. 座標 高齢化と食生活 1 人の外食取り入れて		2019.3	2019 年 3 月 12 日「河北新報」			
4. 座標 鷗外の「元号考」 平和希求 共有の契機に	单著	2019.4	2019 年 4 月 13 日「河北新報」			
5. 座標 太宰生誕 110 年 地方から文学の魅力を	单著	2019.5	2019 年 5 月 18 日「河北新報」			
6. 座標 身近な食べ物の力 各自の記憶を呼び起こす	单著	2019.6	2019 年 6 月 11 日「河北新報」			
7. 書評「佐々木雅發著『政宗白鳥考』」	单著	2020. 7	「日本文学」7 (日本文学協会)			58-59 頁
8. <食>と文学 (学会研究動向)	单著	2021.8	日本近代文学会 東北支部会報			

翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共訳者名 (共訳の場合)	監修者名と当該訳者 数(監修訳書の場合)	該当頁数

学術研究発表		
発表テーマ	発表年月(西暦)	発表場所
A Study of SHISOU TO JISSEIKATSU RONSOU	2019.7	The 38 th International Conference of The Association of North-East Asian Cultures (Kazakh Abali Khan University of International Relations and World Languages)
海を超えた伝説 -正宗白鳥『コロシ寺縁起』-	2022.11	2022年東北亜細亜文化学会・東亜細亜日本学会秋季連合国際学術大会 文化交渉から見た東北アジア(於 兵庫大学)
漱石・鷗外の〈食〉をめぐる文学の試行	2023.7	2023年東北亜細亜文化学会・東亜細亜日本学会秋季連合国際学術大会 (於 函館大学)
正宗白鳥の〈食〉と文学	2023.10	2023年東北亜細亜文化学会・東亜細亜日本学会秋季連合国際学術大会 (於 仁川大学<大韓民国>)

II 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)
日本近代文学会	運営委員(1986~1988)	1982.5
日本文学協会	評議委員(2011~2015) 運営委員(2012~2015)	1990.2
日本近代文学会東北支部会	会計監査(1995~1998) 運営委員・編集委員(2007~2011)	1995.5
日本ペンクラブ	女性作家委員(2007~2023)	2002.2

東北アジア文化学会	紀要編集委員(2007~2008)	2005.6
-----------	-------------------	--------

Ⅲ 研究費の助成を受けた研究(過去5年間)

助成機関名	助成を受けた年度 (西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 (円)
区民協働まちづくり事業助成事業(仙台市)	2019	いずみ絆プロジェクト	レッツ エンジョイ! 女子学生による魅力ある泉区づくり ——インバウンド対策も視野に入れて	
区民協働まちづくり事業助成事業(仙台市)	2021	いずみ絆プロジェクト	外国人とコミュニケーション ——仙台白百合女子大学生による外国人への生活支援——	
区民協働まちづくり事業助成事業(仙台市)	2022	いずみ絆プロジェクト	外国人とコミュニケーション ——仙台白百合女子大学生による外国人への日本語および生活支援——	

3. 特記事項

[主な講話・講演等]	
2019年2月	泉区中央市民センター 泉シニア塾「森家の食卓」(仙台市泉区中央市民センター)
2019年5月	「『作家のまんぶく帖』を語る」日本ペンクラブ女性作家委員会 文学イベント 第4回 作家が自作を語る パネラー ドリアン助川(日本ペンクラブ理事) 木内昇(直木賞受賞作家) 司会 松本侑子(日本ペンクラブ理事) (東京堂ホール<神保町>)
2019年11月	「太宰と<食>」令和元年度 教養大学 日本近代文学リレー講座 太宰治 生誕110年「太宰治を読む・味わう・識る」(栃木県小山市立中央公民館)
2019年11月	「食いしん坊 茂吉 —俺はえやすでなっす—」(仙台文学館)
2019年11月	「特別講演:作家の食生活と健康志向」2019年度 仙台白百合女子大学 人間発達研究センター公開講演会 第1回 養生訓と上皮輸送研究会(東北大学片平さくらホール<仙台市>)
2020年3月	「福井をめぐる作家と文学」開館5周年記念「文学と食卓展」関連イベント (福井県ふるさと文学館)
2021年7月	「みやぎの大学総合コース『鷗外・漱石の<食>と文学』」(仙台市宮城野区中央市民センター)
2022年9月	青葉区中央市民センター老壮大学「あおばカレッジ」講座「文豪の食卓 —森鷗外と夏目漱石を中心として—」(仙台市青葉区中央市民センター)

2023年6月	大学模擬授業 学問の世界「川端康成『伊豆の踊子』 —「私」はなぜ「海苔巻」を食べたのか—」（宮城県宮城野高等学校）
2023年6月	「文京区をめぐる作家の〈食〉と文学」（東京都文京区立森鷗外記念館）
2023年6月	「文豪の「食」と文学 —夏目漱石と森鷗外—」（仙台白百合女子大学後援会総会講演）
2023年6月	「世界への架け橋となる日本語・日本文学」（仙台白百合学園中学校）
2023年8月	「世界への架け橋となる日本語・日本文学」（郡山ザベリオ学園中学校）

自己点検表

1. 教員個別表

フリガナ オガタ ミキ 氏 名 小形 美樹	職 名 教授 人間学部 グローバル・スタディーズ学科	取得学位 博士(経営学) (大学名) 東北大学 (取得年月) 2012年3月
--------------------------	----------------------------------	---

2. 教育・研究業績表

(1) 過去5年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概 要
・実務経験を活かした授業展開やビジネスゲームやアセスメントツールを用いた実践的な演習	2016年4月～	研修講師および人材育成コンサルタントとしての経験を活かし、企業研修で使用するアセスメントツールやビジネスゲームを用い、学生が自分自身の長所や短所を客観的に見つめたり、グループワークによって他者を理解し協調性を身につけたりできるような演習を実施した。また、実務家時代のビジネス現場の体験談を話すなどして、学生が今後のキャリアについて前向きに考えられるような授業展開を心掛けている。

(2) 過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
[著書] 東日本大震災と社会教育	共著	2019年6月	東洋館出版	高橋 保幸	日本社会教育学会 執筆者21名	148-163 (149の一部を除く)
[論文] 1. 短期高等教育機関における教育の現状と課題 —大学編入生へのインタビュー調査から—	単著	2019年3月	研究紀要青葉 10(2)			105-115頁
2. 貧困世帯の子どもへの学習支援とその課題— 支援団体へのインタビュー調査からの考察—	共著	2019年3月	研究紀要青葉 10(2)	佐藤 美輪		117-129頁 (共同研究につき、本人担当部分抽出)

3. 新型コロナウイルス感染症が貧困世帯の子どもへの学習支援に与えた影響とその背景	共著	2023年9月	研究紀要青葉 15(1)	佐藤 美輪	不可能) 79-93 頁 (共同研究につき、本人担当部分抽出不可能)
[研究ノート] 1. 短期大学生の奨学金利用状況と将来予測の傾向	共著	2020年3月	研究紀要青葉 11(2)	佐藤 美輪	81-90 頁 (共同研究につき、本人担当部分抽出不可能)
2. 公立美術館における作品の収集とコレクション展示の課題 -宮城県美術館の場合-	単著	2024年3月	仙台白百合女子大学紀要 28(0)		69-77 頁
[小論文コンクール優秀賞受賞論文] 「キャリア教育」としての「金融教育」-大学における効果的な実施方法-	単著	2016年12月	金融広報中央委員会 HP 第13回「金融教育に関する小論文・実践報告コンクール」 【小論文部門】優秀賞受賞 https://www.shiruporuto.jp/public/document/container/concours_kyoin/2016/16kyoin001.html		総6頁
[実践報告] 2017年度インターンシップ実施報告：就職支援に結びつくインターンシップ	共著	2018年9月	研究紀要青葉 10(1)	佐藤 美輪	91-96 頁
[資料] 1. 観光ビジネス学科学修成果報告(2019年度)	共著	2020年3月	研究紀要青葉 11(2)	金井 典子 佐藤 美輪	91-101 頁

2. 子ども食堂の具体的機能に関する一考察	共著	2024年3月	研究紀要青葉 15(2)	成澤 広幸 佐藤 美輪		71-77頁
[研究プロジェクト報告] 記録管理学体系化に関する研究(その3)ー記録管理学体系化の方向性探索とその成果ー	共著	2020年3月	レコード・マネジメント : 記録管理学会誌 (78)	小川 千代子 日野 祥智 益田 宏明 外7名		59-60頁

翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共訳者名 (共訳の場合)	監修者名と当該訳者 数(監修訳書の場合)	該当頁数
学術研究発表						
発表テーマ			発表年月(西暦)	発表場所		
1. 貧困世帯の子どもへの学習支援とその課題(共同発表)			2019年11月	日本キャリア教育学会第41回研究大会(長崎大学)		
2. 奨学金利用状況からみる短期大学生の実態			2020年10月	日本キャリア教育学会第42回研究大会(筑波大学 オンライン)		
3. 新型コロナウイルス感染症が貧困世帯の子どもへの学習支援に与えた影響			2022年11月	日本キャリア教育学会第44回研究大会(秋田大学 オンライン)		
4. 居場所としての子ども食堂			2023年10月	日本キャリア教育学会第45回研究大会(愛知教育大学)		

II 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)
記録管理学会		2003年3月
日本キャリアデザイン学会		2004年10月
人材育成学会		2009年7月
日本キャリア教育学会		2009年9月

Ⅲ 研究費の助成を受けた研究(過去5年間)				
助成機関名	助成を受けた年度 (西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 (円)

3. 特記事項

[非常勤講師]

1. 東北大学経済学部(集中講義)(2007年～現在)
2. 山形大学人文社会科学部(集中講義)(2013年～現在)
3. 放送大学宮城学習センター(手中講義)(2023年～現在)

[公開講座・講演会・研修会の講演等]

・2017年度先生のための金融教育セミナー大学分科会「キャリア教育としての金融教育」(金融広報中央委員会、2017年8月17日)

[社会的活動]

・仙台市社会教育委員の会議委員(2012年4月～2021年10月、うち2017年11月～2021年10月は、副委員長)

自己点検表

2024年5月31日更新

1. 教員個別表

フリガナ カ ケン 氏 名 賈 軍	職 名 教授 人間学部 グローバル・スタディーズ学科	取 得 学 位 博士(経済学) (大学名) 立正大学 (取得年月) 2003年3月
-------------------------------------	-------------------------------------	--

2. 教育・研究業績表

(1) 過去5年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概 要
レジュメと PowerPoint による授業	2021年4月～	「経済学」の授業において、身近な生活現象を取り上げて作成したレジュメを配布し、それをテキストとして活用している。
中国語検定4級合格者8名、準4級合格者6名	2022年11月	中国語検定試験に対応できる語学力を養成するため、集中トレーニングを行い、DVD教材等を使用し、生の中国語に触れることで聴解力を強化した。

(2) 過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
[著書] 1. 「中国の SOx 排出量とエネルギー経済の課題」古賀弘義編著『日本産業と中国経済の新世紀』	共著	2004.3	唯学書房	古賀弘義他 18名		245-258 頁
2. 「山西省における公共財政システムの建設に関する研究」張改枝・原玉廷編著『山西経済問題研究』	共著	2009.4	山西経済出版社	王效梅・賈軍		256-268 頁
3. 「山西省における大学生の就業の財政支援策に関する研究」趙満華・楊素青編著『山西民生—労働就業と収入分配の研究』	共著	2011.7	経済科学出版社	賈軍・王效梅		58-69 頁

4. 「転換期における山西省地方財政の役割に関する研究」張改枝編著『転換期に迎える山西省の持続可能な経済発展』	共著	2012.3	中国財政経済出版社	賈軍・王效梅		44-50 頁
[論文]						
1. 「中国における二酸化硫黄抑制政策の基礎的検討-山西省の火力発電所に関する脱硫装置普及の課題」	単著	2006.2	仙台白百合女子大学紀要 第 10 号			41-52 頁
2. 「黄河流域における持続的成長の可能性—水資源確保に関する提言」	共著	2009.9	実践経営学研究 No.1	賈軍・浅野浩子		39-47 頁
3. 「黄河流域における水資源の需給と今後の課題」	共著	2010.9	実践経営学研究 No.2	賈軍・浅野浩子		13-18 頁
4. 「中国の石炭産業による環境汚染とその対策—SO2 排出量を中心に」	共著	2013.1	仙台白百合女子大学紀要 第 17 号	賈軍・浅野浩子		189-194 頁
5. 中国における「PM2.5 問題」の現状とその対策	単著	2015.2	仙台白百合女子大学紀要 第 19 号			55-64 頁
「その他」						
「大きな政府による国有企業の躍進と民間企業の衰退」	共著	2011.1	合作経済と科学技術第 408 期	賈軍・王效珍		100-101 頁
翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共訳者名 (共訳の場合)	監修者名と当該訳者 数(監修訳書の場合)	該当頁数

学術研究発表		
発表テーマ	発表年月(西暦)	発表場所
1.黄河流域における持続的成長の可能性—水資源確保に関する提言	2009年9月	(実践経営学会・第52回全国大会)
2.黄河流域における水資源の需給と今後の課題	2010年9月	(実践経営学会・第53回全国大会)
3. 中国の石炭産業による環境汚染とその対策—SO2 排出量を中心に	2012年7月	(実践経営学会・第55回全国大会)
4. 中国のエネルギー事情とPM2.5の問題に関する研究	2013年11月	(実践経営学会・第13回東北支部会)
5. 中国における自動車排気ガス起因による大気汚染PM2.5の問題について	2014年7月	(実践経営学会・第14回東北支部会)
6. 中国における「PM2.5問題」の現状とその対策	2014年8月	(実践経営学会・第57回全国会)

II 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)
日本マネジメント学会	会員	2013年4月～現在に至る
アジア経営学会	会員	2003年4月～現在に至る
東アジア産業研究会	会員	2000年4月～現在に至る
実践経営学会	会員	2009年4月～現在に至る

III 研究費の助成を受けた研究(過去5年間)				
助成機関名	助成を受けた年度 (西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 (円)

3. 特記事項

--

自己点検表

1. 教員個別表

フリガナ 氏名	サカネ オサミ 坂根 治美	職名 特任教授 人間学部 グローバル・スタディーズ学科	取得学位 (大学名)	博士(教育学) (東北大学)	(取得年月) 2020年3月
------------	------------------	--------------------------------------	---------------	-------------------	----------------

2. 教育・研究業績表

(1) 過去5年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概要
① 教育内容・方法の工夫	2021年度～ 2023年度	各担当科目の授業ではできるだけ女性に関するテーマを設定するとともに、それ以外のテーマに関する授業においても可能な限り女性の活動や発言の事例等をとりあげて、受講生の関心を高められるように努めた。

(2) 過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
[博士論文] 1.「近代の高等教育機関と地域社会の文化変容 —絹織物産地桐生の修養主義に注目して—」	単	2020年3月	東北大学 (論文博士)			1～207頁

翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共訳者名 (共訳の場合)	監修者名と当該訳者 数(監修訳書の場合)	該当頁数

学術研究発表		
発表テーマ	発表年月(西暦)	発表場所

--	--	--

II 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)
日本社会学会 日本教育社会学会	事務局研究部員(1997年11月～1998年10月)	1986年11月 1986年12月

III 研究費の助成を受けた研究(過去5年間)				
助成機関名	助成を受けた年度 (西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 (円)

3. 特記事項

東北大学社会教育主事講習会講師[「社会教育演習」担当](1986年度～1993年度) 仙台市職員社会調査法研修会講師(1986年度) 仙台市立看護専門学校非常勤講師[「社会学」担当](1988年度～1993年度) 東北大学教養部非常勤講師[「教育学講読」担当](1989年度、1991年度) 東北労災看護専門学校非常勤講師[「社会学」担当](1990年度) 仙台大学生涯学習センター長(2010年度～2011年度) 宮城県柴田町社会教育委員(2010年度～2015年度) 公益財団法人日本高等教育評価機構大学機関別認証評価評価員(2017年度) 仙台大学非常勤講師[「教育社会学」「社会教育演習B」担当](2018年度)
--

自己点検表

1. 教員個別表

フリガナ スナザワケンジ 氏名 砂澤健治	職名 教授 人間学部 グローバル・スタ ディーズ学科	取得学位 文学修士 (大学名) 東北学院大学	(取得年月) 1987年3月
-------------------------	----------------------------------	---------------------------	----------------

2. 教育・研究業績表

(1) 過去5年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概要
1. 「ヨーロッパの歴史と文化Ⅰ」における視聴覚授業の実践	2023.4	中世ヨーロッパの歴史・文化の理解のため、海外で制作されたシリーズもののDVDの活用。
2. 「言語文化論Ⅰ」「言語文化論Ⅱ」における視聴覚授業の実践	2023.4	BBC制作の「ことばのルーツを求めて」や、「書物5000年」(丸善)などのVHS教材の活用。

(2) 過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
[著書]						
1. 『英語史研究ノート』	共著	2008.12	開文社出版		田島松治・末松信子 編	125-128, 180-182頁
2. 「Late ME における ‘neck’ の同義語について — <i>hals</i> , <i>neck</i> と <i>swire</i> を中心に —」 『片平五十周年記念論文集—英語英文学研究』	単著	2015.3	金星堂出版		片平会編	240-250頁
[論文]						
1. 「ME <i>roust</i> の用法について」	単著	2011.2	英語英文学論叢『片平』 第46号			1-8頁

2. 「 <i>The Canterbury Tales</i> の <i>The Reeve's Tale</i> における 'camus nose' について」	単著	2014.3	『仙台白百合女子大学紀要』 第 18 号			1-8 頁
3. 「Cotton Nero 詩群における 'flower' の類義語 — <i>blom, blosme</i> と <i>flour</i> について — 」		2016.3	『仙台白百合女子大学紀要』 第 20 号			11-18 頁
[その他] 1. 「鈴木榮一先生流の英語学と英語教育」		2014.3	『東北学院大学英学史年報』 第 35 号			23-29 頁

翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共訳者名 (共訳の場合)	監修者名と当該訳者 数(監修訳書の場合)	該当頁数

学術研究発表		
発表テーマ	発表年月(西暦)	発表場所
1. 「14 世紀英語における『顔』を表す言葉について」『OE と ME の文法と語彙— 限定性と指示性を中心に』シンポジウム講師	2014.8	片平会 50 周年記念大会(名古屋工業大学)

II 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)
日本中世英語英文学会	東支部幹事(2006.4 - 2010.3)	1984. 7
日本英文学会		1990. 5
日本英語学会		1994. 11
片平会		1996. 4
西洋中世学会		2008. 9

Ⅲ 研究費の助成を受けた研究(過去5年間)				
助成機関名	助成を受けた年度 (西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 (円)

3. 特記事項

1. スーパー・イングリッシュ・ラングエッジ・ハイスクール (SELHi) 運営指導委員 (於: 茨城県立高萩高等学校) 2006.4. - 2009.3.

2. 学会活動

- ① 日本中世英語英文学会東支部 第24回大会 研究発表司会 (杏林大学) 2008.6.28
- ② 日本中世英語英文学会 第25回全国大会 研究発表司会 (慶応義塾大学) 2009.11.28
- ③ 片平会 第46回夏季研究会 研究発表司会 (神戸: みのたにグリーンスポーツホテル) 2010.8.9

自己点検表

1. 教員個別表

フリガナ タカ ハシ サ ナエ 氏 名 高 橋 早 苗	職 名 教授 人間学部 グローバルスタディーズ学科	取 得 学 位 博士(教育学) (大学名) 東北大学 (取得年月) 1999 年 12 月
--------------------------------	---------------------------------	---

2. 教育・研究業績表

(1) 過去 5 年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概 要
・東北地方をフィールドとしたアクティブ・ラーニング	2011 年度～ 現在	<p>3・11 発生以降、東日本大震災からの復興をテーマとして、学生の共同研究および個人研究を継続的に指導してきた。</p> <p>もう 1 つの柱として、東北地方の多文化共生をテーマとして、3・4 年のゼミで調査研究を実施している。</p>

(2) 過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
[著書] 1. レイシャル・プロファイリング:警察による人種差別を問う	共著	2023.11	大月書店	今野健一	宮下萌編	175-195 頁
[論文]						

2. ニューヨーク市の最近のポリシング改革—Floyd 訴訟連邦地裁判決後の取り組み—	共著	2020.07	『山形大学紀要(社会科学)』 51 巻	今野健一		19-36 頁
3. パンデミック下のニューヨーク市におけるポリシング改革—ブラック・ライブズ・マターの高揚と銃器犯罪の上昇—	共著	2022.07	『山形大学紀要(社会科学)』 53 巻	今野健一		35-52 頁
[翻訳]						
4. ポール・G・クレッシー『タクシーダンス・ホール：商業的娯楽と都市生活に関する社会学的研究』 (Paul G. Cressey, <i>The Taxi-Dance Hall: A Sociological Study in Commercialized Recreation</i>)	共訳	2017.10	ハーベスト社		桑原司・石沢真貴ほか	130-192 頁

学術研究発表		
発表テーマ	発表年月(西暦)	発表場所

II 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)
日本社会学会		1990
東北社会学会		1990
地域社会学会		1992
東北都市学会		1998

Ⅲ 研究費の助成を受けた研究(過去5年間)				
助成機関名	助成を受けた年度 (西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 (円)
文部科学省	2015～2018年	科学研究費;基 盤研究(C)	被災地のまちづくりと生活再建に関する調査研究(代表)	
	2019～2022年	科学研究費;基 盤研究(C)	トランプ政権下アメリカの対テロ・犯罪政策とマイノリティ市民の自由に及ぼす影響(分担)	

3. 特記事項

--

自己点検表

1. 教員個別表

フリガナ ヤ グチ ヨ ブ 氏 名 矢 口 洋 生	職 名 教授 人間学部 GS 学科	取 得 学 位 平和研究修士 (大学名) ゴーシェン・ビブリカル・セミナー (取得年月)1986 年 5 月
------------------------------	----------------------	--

2. 教育・研究業績表

(1) 過去 5 年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概 要
・学生の理解度ををはかるためのリアクションの活用	2021 年 4 月～	学生がどの程度授業を理解しているのかを確認するために、また同時に、授業内容に対する意見や質問を限られた時間のうちに考えて表現する機会として LMS を有効利用している。学生からのリアクションの一部は授業において共有され、応答型アクティブラーニングの実践に結びつく。集積されたデータは最終的に評価に反映される。コロナ以降もこの試みは継続されている。

(2) 過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
[共著] キリスト教平和主義の論点——アナバプティズム の視点から(『戦争と平和主義』)	共	2023.1	いのちのことば社		神田健二、他8名	38-59 頁
[論文] アナバプティズムの平和主義とその展開	単	2021.3	富坂キリスト教センター紀要第 1号			115-128 頁

翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共訳者名 (共訳の場合)	監修者名と当該訳者 数(監修訳書の場合)	該当頁数

--	--	--	--	--	--	--

学術研究発表		
発表テーマ	発表年月(西暦)	発表場所

II 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)
日本キリスト教文学会	東北支部事務局長(1990～)支部長(2006～)	1989
日本宣教学会		1989
日本基督教学会		1991

III 研究費の助成を受けた研究(過去5年間)				
助成機関名	助成を受けた年度 (西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 (円)

3. 特記事項

--

自己点検表

1. 教員個別表

フリガナ　クマ ガイ ケン ジ 氏　名　熊 谷 健 二	職　名　准教授 人間学部　グローバル・スタディーズ学科	取 得 学 位　修士(理学) (大学名)　広島大学 (取得年月) 1993 年 3 月
--------------------------------	--------------------------------	---

2. 教育・研究業績表

(1) 過去 5 年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概 要
1. ドローン・ロボット・AI を活用したゼミの実施	2020.4	ドローンやロボット、AI を活用して 3 年ゼミを実施した。
2. みやぎ県民大学講座「親子でチャレンジ！ロボット&AIプログラミング教室」をゼミで開催	2021.10	ドローンやロボット、AI を用いたワークショップをゼミで開催した。
3. いずみ絆プロジェクト支援事業「にこにこプログラミングプロジェクト」をゼミで開催	2022.10～12	ドローンやロボット、小型マイコンボード micro:bit を用いたワークショップをゼミで開催した。
4. いずみ絆プロジェクト支援事業「Enjoy!!プログラミングプロジェクト」をゼミで開催	2023.10～12	ドローンやロボット、Scratch の AI 機能、小型マイコンボード micro:bit を用いたワークショップをゼミで開催した。

(2) 過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
[著書] [論文]						
1. アハ体験の記憶における効果の検討	共著	2007.3	人間の発達 第2号	大道直人 他3名		49-58 頁
2. ヘブライ語の学習過程における文字と単語の記憶成績の変化	共著	2008.3	人間の発達 第3号	大道直人 渡邊兼行		55-63 頁
3. 漢字認知の視線解析	共著	2009.10	人間の発達 第5号	大道直人 渡邊兼行		37-46 頁
4. Moodle による e-testing 学習支援システムの試行 - 社会福祉士国家試験対策システムを中心に -	共著	2010.3	仙台白百合女子大学紀要 第14号	大道直人 渡邊兼行 嘉村藍 他3名		101-114 頁
5. 書道家と非書道家の漢字認知における視線の比較 - 同一漢字のくずしの効果 -	共著	2011.2	仙台白百合女子大学紀要 第15号	大道直人 他3名		13-28 頁
6. Moodle による e-testing 学習支援システムの試行(2) - 社会福祉士国家試験対策システムを中心に -	共著	2012.1	仙台白百合女子大学紀要 第16号	嘉村藍 他3名		79-102 頁
7. e-learning による学年別社会福祉士国家試験対策システムの試行	共著	2013.3	人間の発達 第8号	嘉村藍 他3名		33-47 頁
8. 視線追尾実験による漢字認知過程の研究	共著	2015.2	仙台白百合女子大学紀要 第19号	大道直人 他3名		65-83 頁

翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共訳者名 (共訳の場合)	監修者名と当該訳者 数(監修訳書の場合)	該当頁数
学術研究発表						
発表テーマ			発表年月(西暦)	発表場所		
II 所属学会						
学会名		役職		入会年月(西暦)		
日本物理学会 情報処理学会 日本教育工学会 日本テスト学会				1993.6～2009.3 2000.12～ 2006.1～ 2014.4～2020.3		

III 研究費の助成を受けた研究(過去5年間)				
助成機関名	助成を受けた年度 (西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 (円)

3. 特記事項

2004.4 ～ 2016.3 情報システム管理室長
2004.4 ～ 2016.3 TOPIC 仙台白百合女子大学ネットワーク運用責任者
2004.4 ～ 2016.3 JPNIC 仙台白百合女子大学ネットワーク運用責任者
2005.4 ～ 2008.3 独立行政法人国立病院機構 仙台医療センター附属仙台看護助産学校 非常勤講師
2022.4 ～ 情報システム管理室長

自己点検表

1. 教員個別表

フリガナ 氏名	クマ ガイ ハル コ 熊谷 治子	職名 講師 人間学部 グローバル・スタディーズ学科	取得学位 博士(文学) (大学名) 白百合女子大学 (取得年月) 2017年2月
------------	---------------------	------------------------------	---

2. 教育・研究業績表

(1) 過去5年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概要
英語 I・II (東北学院大学非常勤)	2007 2018	イギリス文化やアメリカ文化に関する英文を講読し、単語や読解に関する小テストを毎回行っている。英語をなぜ学ぶのか。英語をどのように学ぶのか。英語を学ぶことでどのように未来を豊かにできるのか。このような疑問を毎回投げかけることによって、学生の学習意欲の維持を狙っている。個別に、英語学習計画・実践の具体的アドバイスも行った。
入学前教育 (リメディアル英語)	2010 2023	2010年度より毎年、国際教養学科の入学前教育(英文法ドリル)の採点に取り組んできた。文法的なミスの箇所には説明を記し、重要構文については暗記するように指示をした。また、未記入の箇所には学習をうながすコメントをほどこした。手渡しする際に、一人一人に向けて、英語学習に関するアドバイス等を記した手紙も添付し、さらに在学中に英語関係の資格取得を勧めている。
英語 I・II(人間発達学科、健康栄養学科、心理福祉学科)	2012 2023	英語を専門分野としない学生に対して、学生の外国文化への興味を促すような映像等を授業中に紹介し、異文化理解を促した。音読やシャドーイングを取り入れて、英語に耳から親しむことも積極的に取り組んだ。健康栄養学科の授業では、英語での外国の食卓の説明や、人間発達学科の授業では、英語による子供向け絵本等を臨時教材として取り入れた。
English Tutorial I・II (グローバル・スタディーズ学科)	2013 2023	将来、英語を使って、どのように社会貢献したいのか。各自がその答えを見いだして、自立した英語学習スタイルを確立するよう促している。毎回の授業で、単語テストをし、不合格になった学生には、レポート提出および学習指導を行なっている。英語の楽しさを伝える一方で、積極的に英語関係の資格取得を促す指導もしている。学生には、まず在学中に 2000 時間英語を学習する必要性とその成果の説明をする。その上で、実際、毎週、何時間どのような英語学習をしたのか報告させている。必要に応じて、自宅学習のための本、アプリ、その他映像資料の紹介等も行っている。

(2) 過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
[著書] 『音楽と絵画で読む T.S.エリオット』	単著	2018.11	彩流社			1-357 頁
『英米文学の地平 - W.ワーズワスから日系アメリカ人作家まで』「ことばの対位法 - 『灰の水曜日』と『四つの四重奏曲』を中心として」	共著	2012.4	金星堂	田村一男他	田村一男 監修	99-115 頁
[論文] T.S.エリオットの初期詩編を読む—音楽と絵画を中心として		2017.2	白百合女子大学			1-321 頁
「ある婦人の肖像」における「ある婦人」と「ショパン」——私通の「エンハーモニック転調」をめぐって	単著	2016.11	T. S. Eliot Review No.27			83-98 頁
「エピグラフから読む「J.アルフレッド・プルフロックの恋歌」——「観察をめぐって」	単著	2016.2	仙台白百合女子大学 紀要 第 20 号			153-167 頁
「T. S. エリオット『灰の水曜日』の「音風景」——楽器、泉、階段、鳥をめぐって」	単著	2014.2	仙台白百合女子大学 紀要 第 18 号			91-105 頁
「モダンでクラシカルな音風景(サウンドスケープ)——『荒地』と『春の祭典』の「騒音(ノイズ)をめぐって」カトリック学術奨励金研究奨励賞受賞	単著	2012.12	『英文學研究』 (日本英文学会)第 89 巻			1-20 頁

「第三の性の仮面—『荒地』テイレシアス考	単著	2004.3	<i>Proceedings</i> 第3号 (東北英文学会)		14-19 頁
「 <i>Four Quartets</i> —非在の響き」	単著	2002.3	<i>Proceedings</i> 第1号 (東北英文学会)		14-20 頁
「 <i>Murder in the Cathedral</i> トーマスの越境—ドアのイメージを中心として—」	単著	2001.12	言語・文学研究センター論文集第2号(白百合女子大学言語・文学研究センター)		16-23 頁
「『荒地』の音楽的側面—ワーグナーのライトモチーフをめぐって」	単著	2000.12	言語・文学研究センター論文集第1号(白百合女子大学言語・文学研究センター)		27-36 頁
「『荒地』の音楽的側面—ワーグナーの楽劇との関連をめぐって」 第12回 ロゼンドルフ賞 受賞	単著	2000.10	<i>Soundings</i> 26号(サウンディングズ英語英文学会)		103-119 頁
「聞き手から語り手へ—“I don't hate it”のQuentin」		1999.3	<i>SELLA</i> 28号(白百合女子大学英語英文学会)		77-85 頁
[書評] Robert Crawford, <i>Young Eliot: From St Louis to The Waste Land</i>	単著	2021.3	Studies in English Literature English Number 62 (2021)		pp.77-84
[調査報告] 学科企画「英語勉強会」	単著	2017.3	仙台白百合女子大学学修支援センター		10 頁
学科企画「英語勉強会」	単著	2016.3	仙台白百合女子大学学修支援センター		20 頁
学科企画「英語勉強会」	単著	2015.3	仙台白百合女子大学学修支援センター		10 頁
[要旨報告] 「都市の音風景(サウンドスケープ)— <i>The Waste Land</i> 雑音考」	単著	2003.1	『英文学研究』(日本英文学会) 第80巻第2号		179 頁

翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共訳者名 (共訳の場合)	監修者名と当該訳者 数(監修訳書の場合)	該当頁数
学術研究発表						
発表テーマ	発表年月(西暦)		発表場所			
・「サイクロンの余波——「バート・ノートン」の「聞こえない音楽」をめぐって」	2019.11		日本 T.S.エリオット協会全国大会(於 椋山女学園大学)			
・「エピグラフから読む T.S.エリオット「ある婦人の肖像」—「ジュリエットの墓の雰囲気」をめぐって」	2016.5		十七世紀英文学会全国大会(於 同志社大学)			
・「ジュリエットのカプリッチオー—T.S.エリオット「ある婦人の肖像」の私通をめぐって」	2016.3		十七世紀英文学会東北支部会(於 東北学院大学)			
・「「ある婦人の肖像」という音楽(の絵)」	2015.11		日本 T.S.エリオット協会全国大会(於 愛知学院大学)			
・「T.S.エリオットの詩における闇」	2014.3		英語圏文化・文学コロキウム 於:白百合女子大学			
・「「コルセット」をすてた詩人 T.S.エリオット—『荒地』における「聖なる騒音」をめぐって」	2013.8		言語・文学センター、英語英文学研究室共催 於:白百合女子大学			
・「黒い不協和音—T.S.エリオットのモダンでクラシカルな音風景」	2013.2		英語圏文化・文学コロキウム、言語・文学センター共催 於:白百合女子大学			
・「『荒地』における音と風景の交差点 — 騒音のライトモチーフを演出する舞台装置」	2010.11		日本 T.S.エリオット協会 第 23 回大会 於:尚絅学院大学			
・「テイレシアスは両性具有に生まれたい、両性具有になる!？」	2003.9		東北英文学会第 58 回大会 於:弘前大学			
・「都市の音風景(サウンドスケープ) — <i>The Waste Land</i> 雑音考」	2003.5		日本英文学会第 75 回大会 於:成蹊大学			

・「T.S.エリオット, <i>Four Quartets</i> 「沈黙の音楽」について」	2001.9	東北英文学会 第 56 回大会 於:宮城教育大学
・「 <i>Murder in the Cathedral</i> トーマスの越境—」	2001.5	<i>Soundings</i> (サウンディングズ英語英文学会)第 43 回研究発表会 於:昭和女子大学
・「 <i>The Waste Land</i> の音楽的側面—ライトモチーフとしてのタロット・カード」	1999.11	日本 T.S.エリオット協会 第 12 回大会 於:成蹊大学

II 所属学会				
学会名		役職		入会年月(西暦)
日本T.S.エリオット協会 日本英文学会				1997.11 2000.5
III 研究費の助成を受けた研究(過去 5 年間)				
助成機関名	助成を受けた年度 (西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 (円)
科研費・若手研究	2021-2024	2021 年度～ 21K2950	T.S.エリオット『四つの四重奏曲』の「音風景」	600000 円

3. 特記事項

<p>講演</p> <p>・「「コルセット」をすてた詩人 T.S.エリオット—『荒地』における「聖なる騒音」をめぐる」言語・文学センター、英語英文学研究室共催 2013.8 於 白百合女子大学</p> <p>公開講座</p> <p>・みやぎ県民大学講座「原作探訪 —大江健三郎と村上春樹が引用した T.S.エリオット」 第 1 回:2019 年 9 月 28 日(土) 第 2 回:2019 年 10 月 5 日(土) 第 3 回:2019 年 10 月 12 日(土) 於 仙台白百合女子大学</p> <p>・学都仙台コンソーシアム サテライトキャンパス公開講座 2019 年 11 月 30 日(土)10:30~12:00 「ミュージカル『キャッツ』原作を読もう」 於 仙台市市民活動サポートセンター6 階セミナーホール</p>
--

カトリック学術奨励金研究奨励賞受賞 2012.6

実用英語技能検定準一級合格 2008.2

岩手医科大学非常勤講師 2018.9～現在

東北学院大学非常勤講師 2007.4～2018.3

白百合女子大学非常勤講師 2001.4～2002.3

ロゼンドルフ賞受賞 2001.5

中学教員専修免許(英語) 1999.3

高校教員専修免許(英語) 1999.3